

ここ「水沙連」は、台湾の地理上のど真ん中に位置する
風光明媚な日月潭を有する、標高500M前後の中山間地だ
また、人口8万人のまち・埔里鎮があり、「大埔里」とも称する

1999年、この付近を震源としたM7.3の大地震が発生した！

台湾・水沙連・内加道 絵画教室 常緑展

写真撮影 張勝正(日月潭)



台湾のおばあちゃん達、パワー全開!!

常緑(エバーグリーン)アート

いつまでも色褪せず創作する様を「常緑アート」と名付けています

高齢化に直面する被災地復興のため、新故郷文教基金
会が片田舎の内加道に2007年開設した絵画教室。

今もおじいちゃん、おばあちゃんたちが集まって落書き
したり、絵を描いたりして楽しんでいる。

誰もが心の中に抱く田園風景など、荒々しい筆遣いと
細やかな描写で、いずれも力強い作風だ。

この老人芸術グループの平均年齢は80歳を超え、そ
のうち2人はすでに98歳と99歳！

この一連の絵画は、2024年末国立美術館で行われた
アートセラピー展でも展覧された。



「日本の皆さんも是非見てくださいね！」

2025 **6/4(水)～6/22(日)**

9:30～17:00 (期間中無休)

会場:宝塚市西公民館 3階ギャラリー

■6月15日、日台交流の集い(オンライン)があります。裏面参照



主催:宝塚発まちづくり文化交流 090-5904-6224 共催:新故郷文教基金会(台湾)
協力:宝塚むこスケッチ会 神戸被災地市民交流会 後援:宝塚市 宝塚市国際交流協会(TIFA)

劉蘇錫さん(99歳)

埔里鎮初の仕立屋さん。彼女は、99歳になる今も鋭い観察力を持って創作を続けています。2012年絵画教室に参加し、筆を使って人生を記録し、人生の物語をスケッチしています。その作品には、時代の強い記憶と個人的なスタイルが詰まっています。



林秋鳳さん(82歳)

彼女は65歳から絵を学び始め、17年間絵を描き続けています。彼女の創作スタイルは大胆かつ奔放で、鮮やかな色彩、多様な媒体、そして形式にとらわれることなく、常に強い生命力と深く感動させる芸術的情熱が表れています。



呉阿麵さん(89歳)

10年以上絵画教室に通っています。加齢と手の震えで一度は絵を描くのをやめたが、「震える線にこそ生命力がある！」とみんなの励ましで再び筆を取った。彼女は再び創造の喜びを味わい、自信を取り戻すことができました。



詹雪雲さん(83歳)

彼女は生涯を通じて農家として働き、森林管理やマコモ栽培に従事した。正式な教育を受けておらず、2020年に絵を描き始めたばかり。カラフルな線、点、短い線を使って絵の輪郭を描き、自然で純粋で、独特の芸術スタイルを生み出しています。



日台交流の集い (オンライン)

6月15日 (日) 午後2時～4時 (日本時間)

会場：宝塚市西公民館セミナー室

発言予定者：

台湾側：陳立さん (指導者)、絵画教室の皆さん、新故郷文教基金会他

日本側：和田行雄さん、田村博美さん、宝塚むこスケッチ会の皆さん他